

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	シート区分	ページ
31223	中心市街地活性化対策事業	都市整備部(開発・建築担当)	都市デザイン課	シートB	2
52111	屋外広告物許可等事業	都市整備部(開発・建築担当)	都市デザイン課	シートA	4
52111	景観形成推進事業	都市整備部(開発・建築担当)	都市デザイン課	シートB	5
52211	まちづくり初動期支援事業	都市整備部(開発・建築担当)	都市デザイン課	シートB	7
52211	市街地再開発支援事業	都市整備部(開発・建築担当)	都市デザイン課	シートB	9
52212	みんなで育む美しい街並みと賑わい創出事業	都市整備部(開発・建築担当)	都市デザイン課	シートB	11
52213	住居表示整備事業	都市整備部(開発・建築担当)	都市デザイン課	シートA	13
52213	住居表示維持管理事業	都市整備部(開発・建築担当)	都市デザイン課	シートA	14

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部開発・建築担当	課等名	都市デザイン課	担当グループ名	中活・市街地整備	連絡先	948-6466
	部等長名	一色 芳朗	課等長名	伊賀上 幸徳	リーダー名	岡田 拓也	担当者名	技師 清水 朱里
令和2年度	部局等名	都市整備部開発・建築担当	課等名	都市デザイン課	担当グループ名	中活・市街地整備	連絡先	948-6466
	部等長名	一色 芳朗	課等長名	伊賀上 幸徳	リーダー名	岡田 拓也	担当者名	技師 清水 朱里

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	31223	中心市街地活性化対策事業	事業性質	1-2:自治事務(できる規定あり)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】			笑顔プログラム	個別プログラム	-
政策	暮らしを支える地域経済を活性化				重点プロジェクト	-
施策	事業所立地と雇用創出の推進				主な取り組み	-
主な取り組み	産業基盤の充実			市長公約		
取り組みの柱	中心市街地の活性化					
総合戦略	4212	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)		取組み	② 民間による中心市街地の賑わいづくりを支援し、新たな商業スペースやオフィスなどの創出による都市機能の更新を目指すとともに、企業誘致や空き店舗対策等を積極的に行い、中心市街地への来街者の増加を図ります。
		政策	②生活の質と都市力の向上			
		施策	①民間経済の活力創出と都市機能・居住環境の向上			
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	1:有り		重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し		
根拠法令,条例,個別計画等	中心市街地の活性化に関する法律					
事業の目的(どのような状態にするか)	令和2年10月に認定された新たな中心市街地活性化基本計画を進行管理(事業の実施状況、数値目標の検証等)するとともに、中心市街地の活性化事業を横断的・総合的に調整し、様々なまちづくりをサポートしている中心市街地活性化協議会(会長:松山商工会議所副会頭)の活動を支援するものである。					
背景(どのような経緯で開始したか)	中心市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上を総合的かつ一体的に推進するため、中心市街地活性化の推進に関する法律(平成10年6月30日法律第92号)が制定されたことにより、松山市としても、平成19年に中心市街地活性化協議会を立ち上げ、平成20年11月に松山市中心市街地活性化基本計画の内閣総理大臣認定を受け、中心市街地活性化策を推進している。また、これにより中心市街地活性化基本計画区域で行われる事業の事業者(市も含む)が、国等からの支援を受けることができるようになる。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	中心市街地活性化基本計画を作成することにより、その区域内で行われる事業は、国等からの支援を受けることができるようになる。また、中心市街地活性化協議会の活動に対して補助金を支出することにより、同協議会による活性化策を推進する。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由		
始期・終期(年度)	平成 19	～	令和 7	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	都市計画費	目	都市開発事業費	R2 予算措置時期	当初
				R元年度		R2年度		R3年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				2,649		9,357		2,649		
決算額(B)(単位:千円)				2,658		6,557				
内訳(単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳	国支出金		0		0		0		0	
	県支出金		0		0		0		0	
	市債		0		0		0		0	
	その他		0		0		0		0	
	一般財源		2,658		6,557		2,649			
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算						補助金:1,920千円 委託料:4,620千円		補助金:2,500千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		-9		2,800		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地活性化協議会の活性化事業に対する支援を行った。 令和2年10月に第2期中心市街地活性化基本計画が終了となることから、引き続き中心市街地の活性化を推進するため、3期目となる新たな中心市街地活性化基本計画を策定し、同月内閣総理大臣の認定を受けた。 第2期計画のフォローアップ及び進捗管理を行った。 					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	新たな中心市街地活性化基本計画の策定を行い、内閣総理大臣の認定を受けることができた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、中心市街地活性化協議会の活性化事業に対して支援を予定通り行うことができなかった。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	中心市街地活性化基本計画の各種掲載事業を実施したため。			
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	中心市街地活性化基本計画で進捗管理を行うために定めた3つの目標指標について、歩行者通行量・観光施設入込客数・居住人口は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や社会情勢の影響で、いずれも目標値を達成できなかった。					
R3年度の目標	中心市街地活性化協議会への支援を行うことにより、活性化事業を推進し、中心市街地の活性化へとつなげる。	R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地活性化協議会への補助金支援 中心市街地活性化基本計画のフォローアップ・進捗管理 	特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策	計画目標の達成に向け、中心市街地活性化協議会の協力を得て、各種掲載事業の進捗管理を行いながら、目標達成状況を把握するとともに、状況に応じて適宜計画変更を行う。また、中心市街地活性化協議会の運営会議や事務局会議に参加し、官民一体となって活性化を推進する。	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標	
活動指標 (3つまで設定可)	中心市街地活性化協議会の運営会議、事務局会議、若手経営者会議等の開催回数	回	目標値	19	20	21	22	23	目標値	26
			実績値	8	9	12			達成年度	令和7年度
		%	達成度	42	45	57				
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標								
	本指標の設定理由	中心市街地活性化協議会活動の活性化を図るため								最終目標値の設定の考え方
			目標値							目標値
			実績値							達成年度
		%	達成度							
	指標の種類									
	本指標の設定理由									最終目標値の設定の考え方
			目標値							目標値
			実績値							達成年度
	%	達成度								
指標の種類										
本指標の設定理由									最終目標値の設定の考え方	
		目標値							目標値	
		実績値							達成年度	
	%	達成度								
指標の種類										
本指標の設定理由									最終目標値の設定の考え方	
		目標値							目標値	
		実績値							達成年度	
	%	達成度								
指標の種類										
本指標の設定理由									最終目標値の設定の考え方	
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により会議開催回数は目標には及ばなかったが、普段から電話やメール等で情報共有や協議を密に行っている。今後も、関係者間の連携を深めることで中心市街地の活性化を目指す。								
	成果指標									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容										

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部開発・建築担当	課等名	都市デザイン課	担当グループ名	住居表示担当	連絡先	948-6518				
	部等長名	一色 芳朗	課等長名	伊賀上 幸徳	リーダー名	主査	池田 憲成	担当者名	主任	相原 美砂	主事	森岡 博史
令和2年度	部局等名	都市整備部開発・建築担当	課等名	都市デザイン課	担当グループ名	住居表示担当	連絡先	948-6518				
	部等長名	一色 芳朗	課等長名	伊賀上 幸徳	リーダー名	主査	池田 憲成	担当者名	主任	相原 美砂	主事	坂本 未来

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	52111	屋外広告物許可等事業	事業性質	1-2:自治事務(できる規定あり)	事業区分	1:直営
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	特色ある都市空間を創出する			重点プロジェクト	-	
施策	良好な都市空間の形成			主な取り組み	-	
主な取り組み	都市景観の形成		市長公約	-		
取り組みの柱	良好な景観の形成			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	屋外広告物法、松山市屋外広告物条例					
事業の目的(どのような状態にするか)	屋外広告物法及び松山市屋外広告物条例の規定に基づき、良好な景観形成、風致の維持、公衆への危害防止を目的に、屋外広告物の許可申請及び屋外広告業登録について適切な指導・審査を行う。					
背景(どのような経緯で開始したか)	愛媛県からの権限移譲により、昭和54年度から事業開始。					
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	【屋外広告物】 屋外広告物の表示者からの申請に対し、審査・許可を行うとともに、許可基準を満たすよう指導等を行う。 【屋外広告業】 屋外広告業を営む者に対し、市への登録・変更を行うとともに、講習会の開催等により広告業者のスキルアップを図るほか関係法令の周知等を行う。					
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合,基準や金額等	「無し」の場合,その理由		
			・屋外広告物の申請手数料は、松山市屋外広告物条例に広告物の種類・面積ごとに定めている。 ・屋外広告業の登録手数料は、1件につき1万円としている。			
始期・終期(年度)	昭和	54	～	令和	4	終期の種別
	2:事業の継続・終了の検討時期					

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	都市計画費		都市計画総務費	R2予算措置時期		当初	12月補正
						目	都市計画費		R2年度	R3年度		
				R元年度		R2年度		R3年度				
現計予算額(A)(単位:千円)				4,736		771		598				
決算額(B)(単位:千円)				3,990		402		586				
内訳(単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳	国支出金			0		0		0				
	県支出金			0		0		0				
	市債			0		0		0				
	その他			3,445		402		12				
一般財源			545		0		586					
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算				消費品費:91千円、印刷製本費:78千円、 通信運搬費:204千円		消費品費:176千円、通信運搬費:326千円						
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				委託料:12月補正で1,100千円減額								
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		746		369				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外広告物の許可(確認) ・屋外広告業の登録 ・不法屋外広告物対策協議会の運営 ・違法広告物等の指導及び除却 											
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	予定通りに事業実施できた。								
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	広告物の管理・指導により、良好な都市空間の形成に大きく貢献しているため。									
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない						
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	違反屋外広告物(無許可掲出,未更新分)が、未だ多く見られる状況にある。											
R3年度の目標	広告物の適正な管理に努め、良好な都市空間の形成を図るとともに、安全・安心なまちづくりを推進する。			R3年度の主な取り組み内容(予定含む)			<ul style="list-style-type: none"> ・屋外広告物の許可(確認) ・屋外広告業の登録 ・不法屋外広告物対策協議会の運営 ・違法広告物等の指導及び除却等 			特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策		
制度の更なる周知を図るとともに、違反屋外広告物等の指導強化に取り組む。												

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名 都市整備部 開発・建築担当	課等名 都市デザイン課	担当グループ名 景観	連絡先 948-6848
	部等長名 一色 芳朗	課等長名 伊賀上 幸徳	リーダー名 主査 藤澤 祐司	担当者名 主任 村上 智子
令和2年度	部局等名 都市整備部 開発・建築担当	課等名 都市デザイン課	担当グループ名 景観	連絡先 948-6848
	部等長名 一色 芳朗	課等長名 伊賀上 幸徳	リーダー名 副主任 藤澤 祐司	担当者名 主任 村上 智子

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	52111	景観形成推進事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	特色ある都市空間を創出する			重点プロジェクト	-	
施策	良好な都市空間の形成			主な取り組み	-	
主な取り組み	都市景観の形成		市長公約	543	自分たちのまちに愛着や誇りをもち、住み続けたい松山をつくります	
取り組みの柱	良好な景観の形成				環境モデル都市としてスマートシティ化やごみ減量・リサイクルを進めます。また、アーバンデザインセンターの活動を充実し、総合的なまちのデザインを形成するなど、美しく快適な都市空間を創造します。	
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	景観法、松山市景観条例、松山市景観計画、松山市景観整備支援事業補助金交付要綱					
事業の目的(どのような状態にするか)	良好な景観によるまちづくりを推進するために、景観法及び松山市景観条例に基づく景観計画の運用や大規模行為に対する民間事業者への景観誘導の指導・届出審査などを行うとともに、景観教育やまつやま景観賞を実施することで広く市民に対して景観啓発を図り、更には松山市景観計画の区域内で民間事業者が行う屋上緑化、既存不適格屋外広告物等撤去に対して本市独自の助成制度により支援することで、松山らしい景観の保全・創出を推進し、都市ブランドの向上と地域の活性化を目指す。					
背景(どのような経緯で開始したか)	良好な景観形成に対する市民の関心の高まりから、平成8年に独自条例の「都市景観条例」を制定、平成16年には「景観法」が制定されたことから「都市景観条例」を「景観条例」に変更し、建築行為などを行う際の事前届け出制度で担保された良好な景観の形成に努めている。また、平成8年からは景観賞を実施するなど、更なる市民の景観に対する意識高揚を図るためのソフト事業の充実も図っている。					
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	市民との協働により、松山市景観計画の策定・運用、景観まちづくり事業の実施(まつやま景観賞、景観教育など)、松山市景観審議会の開催、景観整備の支援(補助金)などを行う。					
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し	「有り」の場合、基準や金額等	景観条例や景観計画は本市が任意に策定したものであり、景観形成や景観まちづくりは市民との協働で作りに上げていくものであるため。		
始期・終期(年度)	平成	8	～	令和	3	終期の種別
			2:事業の継続・終了の検討時期			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	都市計画費		都市計画総務費	R2 予算措置時期		当初	12月補正
						R元年度	R2年度		R3年度	R3年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				9,812		4,381		4,080				4,080
決算額(B)(単位:千円)				7,377		3,330						
内訳(単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳	国支出金			0		1,242		0				0
	県支出金			3,000		0		0				0
	市債			0		0		0				0
	その他			0		0		0				0
	一般財源			4,377		2,088		4,080				
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算				委員報酬315千円 委託料2,484千円		委員報酬440千円 委託料2,500千円						
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				12月補正で1,250千円追加(歳入)								
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		2,435		1,051				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 松山市景観計画の策定・運用 景観まちづくり事業の実施(まつやま景観賞、景観教育など) 松山市景観審議会の開催 景観整備の支援(補助金) 					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	<ul style="list-style-type: none"> 松山市景観計画に三津浜地区景観計画区域を追加することができた。 松山市景観審議会を開催し、松山らしい景観形成について審議を進めることができた。 まつやま景観賞の実施や出前講座による景観教育を実施し、景観啓発を図ることができた。 		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	松山らしい景観の形成や市民の景観に対する意識啓発が進んでいる。			
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	景観という考え方は、数値的な成果があるものではなく、主観によるものが多いため、なかなか理解が得られない場合がある。					
R3年度の目標	市は市民や事業者の景観づくりを支えるとともに普及・啓発の仕組みを整える必要があることから、更なる景観意識の高揚を図る取り組みを充実させ、市民が主体となった景観まちづくりを推進する。		R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	<ul style="list-style-type: none"> 松山市景観計画の策定・運用 景観まちづくり事業の実施 松山市景観審議会の開催 景観整備の支援 		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組み改善策

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
		指標の種類				最終目標値の設定の考え方					
		本指標の設定理由									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
			%	達成度							
		指標の種類				最終目標値の設定の考え方					
		本指標の設定理由									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
成果指標 (3つまで設定可)	景観計画区域	ha	目標値	160.7	200.0	200.0	228.5	228.5	目標値	228.5	
			実績値	160.7	160.7	225.3			達成年度	R8年度	
		%	達成度	100	0	164					
		指標の種類	3:累計での増加を目指す指標			最終目標値の設定の考え方		景観計画の策定を目指す区域の追加を目標値とする。目標値は、各地域の機運醸成を図りながら地域の要望等に応じて新たに設定(変更)していく。			
		本指標の設定理由	松山市景観計画は松山らしい景観の形成を図るため策定していることからその面積は一定の指標になると考えるため。								
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
			%	達成度							
		指標の種類				最終目標値の設定の考え方					
		本指標の設定理由									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標										
	成果指標	松山市景観計画に三津浜地区景観計画区域を追加し、目標値を達成することができた。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名 都市整備部開発・建築担当	課等名 都市デザイン課	担当グループ名 中活・市街地整備	連絡先 948-6466
	部等長名 一色 芳朗	課等長名 伊賀上 幸徳	リーダー名 岡田 拓也	担当者名 主任 渡部 剛士
令和2年度	部局等名 都市整備部開発・建築担当	課等名 都市デザイン課	担当グループ名 中活・市街地整備	連絡先 948-6466
	部等長名 一色 芳朗	課等長名 伊賀上 幸徳	リーダー名 岡田 拓也	担当者名 副主幹 上田 修丈

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名 (施策コード)	52211	まちづくり初期期支援事業			事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金	
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】				笑顔 プログラム	個別プログラム	-		
政策	特色ある都市空間を創出する					重点プロジェクト	-		
施策	計画的な土地利用の推進					主な取り組み	-		
主な取り組み	市街地形成の推進				市長公約				
取り組みの柱	にぎわいのある都市空間の創出								
総合戦略	4212	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)			取組み	② 民間による中心市街地の賑わいづくりを支援し、新たな商業スペースやオフィスなどの創出による都市機能の更新を目指すとともに、企業誘致や空き店舗対策等を積極的に行い、中心市街地への来街者の増加を図ります。		
		政策	②生活の質と都市力の向上						
		施策	①民間経済の活力創出と都市機能・居住環境の向上						
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	1:有り		重点的取組事業該当有無(R2)		2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等	松山市新まちづくり促進補助金交付要綱								
事業の目的 (どのような状態にするか)	地域住民が主体で取り組む民間再開発事業や地区景観検討事業、または土地区画整理事業等を推進するために支援を行う。								
背景 (どのような経緯で開始したか)	地域住民が主体で取り組む事業を推進するためには、事業化に至るまでの機運醸成が課題であり、合意形成を図るために、権利調整や事前検討などの活動経費の地元負担を軽減させることが必要である。								
対象・事業内容 (誰に対して,何をやるのか)	「松山市中心市街地活性化基本計画」に位置付けられた地区の団体等に対して、(1)事業に関する調査研究、(2)事業に関する基本計画の検討、(3)講演会、研修会等の開催、(4)先進都市の視察、(5)広報紙、パンフレット等の作成、(6)団体等の運営に通常必要な経費に対して補助金で支援を行う。								
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由					
始期・終期(年度)	平成	5	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	都市計画費	目	都市開発事業費	R2 予算措置時期		
									当初		
						R元年度	R2年度	R3年度			
現計予算額(A) (単位:千円)						37		37			37
決算額(B) (単位:千円)						5		16			
内訳 (単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳	国支出金			0		0		0		0	
	県支出金			0		0		0		0	
	市債			0		0		0		0	
	その他			0		0		0		0	
	一般財源			5		16		37			
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算							消耗品費:16千円	消耗品費:37千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額 (単位:千円)						(A)-(B)	32	21			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	事業を検討している地域の団体や組織等に対して、本市の景観計画や制度の考え方、支援の方針などを説明し、助言等を行った。							
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	相談内容に対して助言等を行った。				
施策への貢献度 (目的の達成度を含む)	4:どちらもない		左記の理由	補助金支出による支援は行っていないが、相談に対する助言等は行った。				
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特になし。							
R3年度の目標	まちづくりの機運向上のため、適切に支援を行う。		R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	必要に応じて、助言等を行う。			特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策	特になし。

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	助成団体数	回	目標値	22	22	23	24	25	目標値	25	
			実績値	18	18	18			達成年度	R4年度	
			% 達成度	20	0	0					
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		民間事業であるので、最終目標は設定困難。			
	本指標の設定理由	本事業の目標とする指標であるため。									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
% 達成度											
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			% 達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
	上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	必要に応じて助言などは行ったが、補助金支出による支援は行っていない。								
		成果指標									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部開発・建築担当	課等名	都市デザイン課	担当グループ名	中活・市街地整備	連絡先	948-6466				
	部等長名	一色 芳朗	課等長名	伊賀上 幸徳	リーダー名	副主幹	岡田 拓也	担当者名	主任	渡部 剛士	主事	藤井 健史
令和2年度	部局等名	都市整備部開発・建築担当	課等名	都市デザイン課	担当グループ名	中活・市街地整備	連絡先	948-6466				
	部等長名	一色 芳朗	課等長名	伊賀上 幸徳	リーダー名	副主幹	岡田 拓也	担当者名	主任	渡部 剛士	技師	村上 和宏

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	52211	市街地再開発支援事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】					笑顔プログラム	116	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム
政策	特色ある都市空間を創出する							重点プロジェクト	松山への新しい人の流れをつくる「心ひかれるまちづくり」プロジェクト
施策	計画的な土地利用の推進							主な取り組み	中心市街地のにぎわいづくり
主な取り組み	市街地形成の推進					市長公約	512	自分たちのまちに愛着や誇りをもち、住み続けたい松山をつくります	
取り組みの柱	にぎわいのある都市空間の創出							コンパクトシティのシンボル広場として駅前広場を整備し、公共交通の利用を促すほか、歩行者の賑わいを中心市街地に取り戻します。また、JR松山駅周辺やインター東線など、社会基盤整備を着実に進めます。	
総合戦略	4211	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)			取組み	①「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」、「歩いて暮らせるまちづくり」の実現に向けて、未来技術やデータをまちづくりに活用し、都市機能の向上に取り組みとともに、持続可能な都市構造への転換を図ります。また、低未利用地を活用した居住促進・賑わいの創出に取り組みます。		
		政策	②生活の質と都市力の向上						
		施策	①民間経済の活力創出と都市機能・居住環境の向上						
総合計画の実施計画掲載有無(R2)		1:有り	重点的取組事業該当有無(R2)		1:有り				

根拠法令,条例,個別計画等	都市再開発法、都市計画法、地区計画条例									
事業の目的(どのような状態にするか)	土地の合理的かつ健全な高度利用及び市街地環境の整備が必要な区域について、市街地再開発事業の事業化の促進を図るための支援を行う。									
背景(どのような経緯で開始したか)	再開発を中心とした老朽建物の更新により、魅力ある商業核の創出や都心居住機能の充実が図られ、本市が目指すコンパクトシティの推進に貢献するため。									
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	市街地再開発事業の施行者へ補助金を支出することや、技術的な助言を行うことで支援する。									
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合、基準や金額等		「無し」の場合、その理由				
始期・終期(年度)	平成	28	～	令和	7	終期の種別	1:事業の終了時期			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	都市計画費	目	都市開発事業費	R2 予算措置時期		
									当初		
						R元年度	R2年度	R3年度			
現計予算額(A) (単位:千円)						219,852	355	355			
決算額(B) (単位:千円)						211,657	114				
内訳 (単位:千円) ※R元→R2 決算内訳、 R3→予算内訳	国支出金			105,708		0	0	0			
	県支出金			23,154		0	0	0			
	市債			0		0	0	0			
	その他			0		0	0	0			
一般財源			82,795		114	355					
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算						消耗品費:24千円 負担金:90千円	旅費:245千円 消耗品費:30千円 負担金:80千円				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額 (単位:千円)						(A)-(B)	8,195	241			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	「湊町三丁目C街区地区」と「一番町一丁目・歩行町一丁目地区」の2地区の市街地再開発準備組合が実施する市街地再開発事業の取り組みに対し、国や県との協議や理事会への参加し、助言などの支援を行った。										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など			2地区とも組合設立(事業認可)へ向けた支援は当初の予定通りに行えたが、認可申請にはまた時間を要する。					
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		本事業は都市機能の更新による利便性の向上や、都心居住に貢献するほか、中心部全体のエリア価値を高め中心市街地の活性化につながるため。						
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	「湊町三丁目C街区地区」と「一番町一丁目・歩行町一丁目地区」の2地区の市街地再開発事業では、事業収支バランスの調整や権利者をはじめとする関係者の合意形成に時間を要している。										
R3年度の目標	湊町三丁目C街区地区の市街地再開発組合の認可申請を目標とする。			R3年度の主な取り組み内容(予定含む)			組合設立(事業認可)へ向けて国や県との協議、理事会への参加などの支援を行う。		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策		権利者等へ丁寧な対応を行うよう準備組合を指導することで、事業区域内の地権者及び周辺住民の理解が得られるように取り組む。

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	再開発準備組合等が開催する会議への参加回数	回	目標値	40	60	70	80	90	目標値	140	
			実績値	45	65	68			達成年度	令和7年度	
		%	達成度	124	133	60					
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標								最終目標値の設定の考え方	事業が進むと想定した場合の会議参加回数により設定
	本指標の設定理由	再開発準備組合等が実施する再開発事業を支援するため。									
		目標値	実績値							目標値	
			%	達成度						達成年度	
		指標の種類									最終目標値の設定の考え方
	本指標の設定理由										
		目標値	実績値							目標値	
			%	達成度						達成年度	
		指標の種類									最終目標値の設定の考え方
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)		目標値	実績値						目標値		
			%	達成度						達成年度	
		指標の種類									最終目標値の設定の考え方
	本指標の設定理由										
		目標値	実績値							目標値	
			%	達成度						達成年度	
		指標の種類									最終目標値の設定の考え方
	本指標の設定理由										
	上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	感染防止対策のため会議が開催されず、参加回数は目標に及ばなかったが、概ね達成できたので、活動を継続する。								
		成果指標									
	上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容										

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名 都市整備部 開発・建築担当	課等名 都市デザイン課	担当グループ名 景観	連絡先 948-6848
	部長名 一色 芳朗	課等長名 伊賀上 幸徳	リーダー名 主査 藤澤 祐司	担当者名 主任 日野 真一
令和2年度	部局等名 都市整備部 開発・建築担当	課等名 都市デザイン課	担当グループ名 景観	連絡先 948-6848
	部長名 一色 芳朗	課等長名 伊賀上 幸徳	リーダー名 主査 藤澤 祐司	担当者名 主任 日野 真一

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	52212	みんなで育む美しい街並みと賑わい創出事業			事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】				笑顔プログラム	221	個別プログラム	笑顔を育むプログラム
政策	特色ある都市空間を創出する						重点プロジェクト	わがまち松山への愛着と誇りの醸成による「住み続けたいまちづくり」プロジェクト
施策	計画的な土地利用の推進						主な取り組み	地域資源の利活用と知る機会の充実
主な取り組み	市街地形成の推進				市長公約	543	自分たちのまちに愛着や誇りをもち、住み続けたい松山をつくります	
取り組みの柱	協働による中心市街地のまちづくり						環境モデル都市としてスマートシティ化やごみ減量・リサイクルを進めます。また、アーバンデザインセンターの活動を充実し、総合的なまちのデザインを形成するなど、美しく快適な都市空間を創造します。	
総合戦略	4613	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)			取組み	③ 住民や事業者、まちづくり団体等が主体的に取り組む歴史的建造物の保全や改修、賑わい施設整備などに対する支援に取り組みます。	
	政策	⑥誰もが活躍できるふるさとづくりの推進						
	施策	①市民主体・地域特性を生かしたまちづくり						
総合計画の実施計画掲載有無(R2)		1:有り	重点的取組事業該当有無(R2)	1:有り				

根拠法令, 条例, 個別計画等	松山市美しい街並みと賑わい創出事業補助金交付要綱							
事業の目的(どのような状態にするか)	民間によるまちづくりに貢献する施設整備に対して支援を行うことで、官民連携のまちづくりを推進し、美しい街並みや賑わいの創出を図る。							
背景(どのような経緯で開始したか)	まちの賑わいを再生するためには、多様化した地域の課題について、行政のみならず、住民・事業者・まちづくり団体等の地域の担い手が主体的にまちづくりに取り組むことが重要である。そこで、地域の特色に応じた景観形成や地域独自の賑わいのあるまちづくりを推進するため、行政の計画等と連携した街並み景観整備や賑わい創出施設整備を支援する事業を立ち上げた。							
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	まちづくりに貢献する民間の施設整備等に「松山市美しい街並みと賑わい創出事業補助金」による支援を行うことで、景観整備や賑わい創出を促進する。							
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合,基準や金額等	「無し」の場合,その理由	補助金の額を「補助対象経費の3分の2又は500万円のいずれか低い方の額」としている。			
始期・終期(年度)	平成	25	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	都市計画費	目	都市開発事業費	R2 予算措置時期		当初	繰越
									R2年度	R3年度		
現計予算額(A) (単位:千円)						29,873		11,083				10,173
決算額(B) (単位:千円)						19,814		589				
内訳 (単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳						国支出金		0		0		0
						県支出金		0		0		0
						市債		0		0		0
						その他		5,000		0		10,000
			一般財源			14,814		589				173
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算							報償費83千円 工事請負費506千円		補助金10,000千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等							予算額のうち、660千円は翌年度へ繰越					
予算執行残額 (単位:千円)			(A)-(B)			10,059		10,494				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	より一層の高い効果が期待できる施設整備等を支援できるよう事業内容の周知を図り、申請の相談・受付から補助事業の採択までを行った。											
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	補助対象事業として2件採択した。(完成は翌年度)								
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由		まちづくりに貢献する民間の施設整備等を支援し、景観整備や賑わい創出が図られている。								
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない						
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	令和2年度に補助対象事業として採択した2件の施設整備の完成が令和3年度に繰越となっている。											
R3年度の目標	審査委員会を行った上で、より効果的な事業に支援を行う。			R3年度の主な取り組み内容(予定含む)			広く募集を行い、審査委員会を経た上で、補助金支援を行う。			特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策		
	令和2年度から繰越となっている2件の施設整備を完了までフォローアップする。											

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	補助金の交付件数 (施設等の完成)	件	目標値	26	28	28	30	32	目標値	32	
			実績値	25	26	26			達成年度	R4年度	
		%	達成度	67	33	0					
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標							積立金残高から試算される支援数を目標値とした。		
	本指標の設定理由	官民連携による美しい街並みや賑わいの創出を目的としていることから補助件数は一定の指標になると考えるため。							最終目標値の設定の考え方		
		目標値	実績値							目標値	
			%	達成度						達成年度	
		指標の種類								最終目標値の設定の考え方	
	本指標の設定理由								最終目標値の設定の考え方		
		目標値	実績値							目標値	
			%	達成度						達成年度	
		指標の種類								最終目標値の設定の考え方	
本指標の設定理由								最終目標値の設定の考え方			
成果指標 (3つまで設定可)		目標値	実績値							目標値	
			%	達成度						達成年度	
		指標の種類								最終目標値の設定の考え方	
	本指標の設定理由								最終目標値の設定の考え方		
		目標値	実績値							目標値	
			%	達成度						達成年度	
		指標の種類								最終目標値の設定の考え方	
	本指標の設定理由								最終目標値の設定の考え方		
	上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	今後も継続した補助事業の周知が必要である。								
		成果指標									
	上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容										

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部開発・建築担当	課等名	都市デザイン課	担当グループ名	住居表示担当	連絡先	948-6463				
	部等長名	一色 芳朗	課等長名	伊賀上 幸徳	リーダー名	主査	池田 憲成	担当者名	副主幹	半場 稔	主事	佐々木 加奈
令和2年度	部局等名	都市整備部開発・建築担当	課等名	都市デザイン課	担当グループ名	住居表示担当	連絡先	948-6463				
	部等長名	一色 芳朗	課等長名	伊賀上 幸徳	リーダー名	主査	池田 憲成	担当者名	主任	曾根 あけみ	主事	塩崎 加奈

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	52213	住居表示整備事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営	
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】		笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	特色ある都市空間を創出する			重点プロジェクト	-		
施策	計画的な土地利用の推進			主な取り組み	-		
主な取り組み	市街地形成の推進		市長公約	-			
取り組みの柱	良好な住環境の形成			-			
総合戦略	基本目標	-					
	政策	-					
	施策	-					
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等	住居表示に関する法律,松山市住居表示に関する条例						
事業の目的(どのような状態にするか)	本事業では、「住居表示に関する法律」に基づき、議決を受けて住居表示計画地区を定め、意見集約など合意形成が整った地区から順次住居表示の整備を行っており、現在、計画地区(5,001ha)のうち、3,197ha(63.93%)で住居表示を実施している。						
背景(どのような経緯で開始したか)	「住居表示に関する法律(昭和37年)」の施行により、昭和39年から実施している。						
対象・事業内容(誰に対して,何をとするのか)	市内の住居表示計画地区内にある建物その他工作物 住居表示を新規に実施するため、次の手順で実施する。 1. 住居表示に関する相談の受付・説明等 2. 地元での意見集約、市への実施要望 3. 地元と市での協議 4. 実施計画の策定 5. 審議会での審議 6. 議会での議決 7. 住居表示の実施						
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由				
始期・終期(年度)	昭和	39	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	都市計画費	目	住居表示費	R2予算措置時期		
									当初		
				R元年度		R2年度		R3年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				83		83		81			
決算額(B)(単位:千円)				69		53		-			
内訳(単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳	国支出金			0		0		0			
	県支出金			0		0		0			
	市債			0		0		0			
	その他			0		0		0			
一般財源			69		53		81				
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算				-		消耗品費:52千円 通信運搬費:1千円		消耗品費:73千円 通信運搬費:8千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				-		-		-			
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		14		30			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	ホームページ・パンフレットなどにより制度の内容や実施方法などについて周知・啓発を行った。 また、市民等からの問い合わせの際には、住居表示の必要性や利便性なども併せて説明を行った。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	市民等からの問い合わせに対しては、丁寧に説明を行うことができた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	4:どちらもいえない		左記の理由	ホームページ・パンフレットなどにより制度の内容や実施方法などについて周知・啓発を行っているものの、未実施地区での説明会の開催はなく、地元からの要望には至らなかった。		
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	昨今の電子地図等の普及、情報化の進展に伴い、住居表示実施の必要性や緊急性が低下し、住居表示実施による住所変更手続きの煩雑さが課題となり、地元要望が減少し、合意形成には至っていない状況である。					
R3年度の目標	未実施地区からの要望があった場合、必要に応じて説明会開催等の支援を行う。		R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	引き続き住居表示の周知・啓発を行うとともに、その利便性や課題も併せて説明を行う。		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策
				環境変化による住居表示のメリット・デメリットなども考慮しながら、住民の必要に応じた丁寧な説明を行う。		

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部開発・建築担当	課等名	都市デザイン課	担当グループ名	住居表示担当	連絡先	948-6463				
	部等長名	一色 芳朗	課等長名	伊賀上 幸徳	リーダー名	主査	池田 憲成	担当者名	副主幹	半場 稔	主事	佐々木 加奈
令和2年度	部局等名	都市整備部開発・建築担当	課等名	都市デザイン課	担当グループ名	住居表示担当	連絡先	948-6463				
	部等長名	一色 芳朗	課等長名	伊賀上 幸徳	リーダー名	主査	池田 憲成	担当者名	主任	曾根 あけみ	主事	塩崎 加奈

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	52213	住居表示維持管理事業	事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	2:委託	
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】		笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	特色ある都市空間を創出する			重点プロジェクト	-		
施策	計画的な土地利用の推進			主な取り組み	-		
主な取り組み	市街地形成の推進		市長公約	-			
取り組みの柱	良好な住環境の形成			-			
総合戦略	基本目標	-					
	政策	-					
	施策	-					
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等	住居表示に関する法律、松山市住居表示に関する条例						
事業の目的(どのような状態にするか)	本事業は、昭和39年7月の第1次道後地区から平成21年1月の第38次北土居地区に整備した308町(3,197ha)の住居表示実施地区のうち、実施後長年経過した地区から順次、老朽化した街区表示板の取替えや台帳図の最新化、住居表示システムの更新などの維持管理を行う。						
背景(どのような経緯で開始したか)	松山市では、「住居表示に関する法律(昭和37年)」に基づき、昭和39年より順次住居表示を整備している。しかし、整備地区内での建物の新築や道路形状等の変化により整備地区の環境が年々変化していることや、設置した街区表示板が経年により劣化し、役割を果たせなくなってしまうことから、定期的な維持管理を行っている。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	住居表示実施地区(308町)において、直営にて街区表示板の取替えを行い、住居表示台帳の更新委託については、コンピューターシステム関係へ委託料を支出。						
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由				
始期・終期(年度)	昭和	55	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	都市計画費	目	都市計画総務費	R2予算措置時期		当初
									R2年度	R3年度	
現計予算額(A)(単位:千円)						10,547		7,407			7,170
決算額(B)(単位:千円)						10,043		5,780			
内訳(単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳						国支出金		0			0
						県支出金		0			0
						市債		0			0
						その他		0			0
						10,043		5,780			7,170
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算							委託料:5,533千円 消耗品費:388千円			委託料:6,559千円 消耗品費:559千円 印刷製本費:42千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			504		1,627			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	令和2年度は直営による街区表示板の貼替等の維持管理業務のほか、都市情報システム上で稼働している住居表示システム台帳のうち、高浜・三津浜・宮前・味生地区の更新委託を行った。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	直営及び委託共に特に大きな問題もなく、維持管理を行うことができた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	表示板などの取替えなどにより、良好な住環境整備が図れているため。			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	経年劣化や破損した街区表示板の取替えについて、空き家等の連絡が取れない家屋の増加や、取替えをせず回収のみを希望されるなど、取替え作業が進まない箇所が見られる。					
R3年度の目標	維持管理業務の適正かつ円滑な実施に努める。	R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	和泉北・保免・市坪・古川・天山・西石井地区の台帳更新、及び全実施地区の街区表示板の貼替等の維持管理を行う。	特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策	街区表示板の取替えについて、住民の理解や協力が得られるよう、掲示の必要性など丁寧な説明を心がける。	